

色で表現 ふるさとの魅力

12月3日 ふるさとCM大賞 in NAGANO



地域の魅力を手作りのCMでPRする「ふるさとCM大賞 in NAGANO」の最終審査会が長野市のホクト文化ホールで開かれました。当日は、県内市町村から応募のあった72作品の中から大賞候補にノミネートされた18作品の審査が行われました。安曇野市からは、齋藤哲也さん(三郷温)の「安曇野の色色な魅力と出会う」がノミネートされ、敢闘賞を受賞。齋藤さんは、「県内には、まだまだ知らない場所が沢山ある。この賞を励みに制作活動を続けたい」と今後の意気込みを語ってくれました。最終審査会の模様は、1月3日(水)16:00から長野朝日放送で放映されます。

奏でる音色 力強く

11月26日 三味線と太鼓の小さな演奏会



三味線と太鼓の小さな演奏会(伝統文化三味線親子教室主催)が穂高公民館で開かれ、三味線の凛とした音色と太鼓の力強い音が会場を包みました。この演奏会は同教室が三味線を身近に感じてもらうと企画。当日は、教室に通う小学生10人が日頃の練習の集大成として「信濃の国」「木曾節」「千本桜」の3曲を披露。また、太鼓「あづみ野鼓友会」と津軽三味線「ふぞろいの林檎たち」が友情出演し、5曲を演奏しました。三味線を始めて5ヶ月という熊谷優里さん(9)は「緊張せず、手がなめらかに動いて良い音が出た。多くの人に見てもらえて良かった」と笑顔で話してくれました。

冬の空気を幻想的に包む 1万本の竹灯籠

12月1~3日、8~10日 第12回安曇野神竹灯

約1万本の竹灯籠の灯りが彩る「安曇野神竹灯」(実行委員会主催)が開かれ、夜の穂高神社が幻想的な雰囲気になりました。今年は2週にわたり6日間の開催。神楽殿では日替わりのライブが、南神苑ではクラフトや飲食の出店が行われ、写真撮影や買い物を楽しむ家族連れやカップルでにぎわいました。

初めて訪れたという玉木茂成さん(豊科)は、「想像以上にたくさん灯りがともされていて驚いた。ライブや出店もあって、普段の神社とは全く違った雰囲気」と話し、竹から広がる暖かな灯りを背景に家族との写真撮影を楽しんでいました。



笑顔で染まる リンゴ色の頬

11月22日 三郷西部認定こども園 リンゴ狩り体験



三郷西部認定こども園の園児47人が、園舎東側にある中田平男さんの畑でリンゴ狩り体験をしました。この体験は、畑が園児たちの散歩コースになっていることから中田さんの好意により続けられ7年目。澄み渡った秋晴れの青空のもと、園児たちが食べごろとなったサンふじを笑顔でもぎ取っていました。

押川日南ちゃん(6)は「高い所の大きなリンゴは取るのが難しかったけど美味しそうにリンゴが取れてうれしい」とほほえみ、中田さんの妻・愛子さんは「子どもたちの笑顔が見られるこの時期を毎年楽しみにしている」と話してくれました。

五感で満喫 森林の豊かな恵み

11月19日 初冬の森林浴



案内人の「森林浴ファシリテーター」から、森林浴の魅力体験するイベント(もりんく主催)が開かれ、6人が参加しました。ファシリテーターから感覚を研ぎ澄ましながら森林を感じるためのアドバイスを受けた参加者は、思い思いに五感を開放し、リラックスして過ごしました。

また、地域住民との交流として、県宝・光久寺でのヨガで体をほぐしたり、清水地区里山整備協議会によるキノコ汁のふるまいでおなかを満たしました。

山崎亨さん・和子さん(明科)は、「樹木の説明を聞いたり、触ったり、耳を澄ませてみたりして、普段は気が付かない身近な山の楽しみ方を発見できた」と話していました。

五穀豊穡に感謝 安曇野の味が勢ぞろいの2日間

11月11日・12日 信州安曇野食の感謝祭

安曇野のグルメやスイーツを味わう食のイベント「信州安曇野食の感謝祭」(実行委員会主催)が開かれました。会場となった穂高神社には市内の飲食店や菓子店をはじめ市の友好都市のブースが出店され、大勢の家族連れでにぎわいを見せていました。境内では米や白菜など安曇野産農産物が飾られた豊穡宝船が奉納され、今年の五穀豊穡に感謝を込めた野菜が配られ始めると長蛇の列ができていました。

美和ちゃん(3)の七五三で訪れていた脇坂睦美さん(豊科)は「おいしいものがたくさんあって楽しい。おいしく物が食べられることへの感謝と娘の健やかな成長をお願いしました」と優しく微笑んでいました。

